水戸まちクリエイター・ワークショップ

会　議　録

平成 27 年 7 月

水　戸　市

水戸まちクリエイター・ワークショップ　会議録

１　日　　時

平成 27 年 7 月 13 日（月）午後１：30～午後４：00

２　場　　所

ホテルレイクビュー水戸　２F 常磐の間

３　次　　第

１　開　　会

２　あいさつ

水戸市長　高橋　靖

３　参加者紹介

４　水戸市のまち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的方針について説明

５　意見交換，懇談

６　総　　評

水戸市長　高橋　靖

７　閉　　会

配　布　資　料

資料①	まち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的な方針（水戸市）
資料①（参考）	国におけるまち・ひと・しごと創生について
資料②	水戸市の人口動向
資料③	水戸市の経済関連資料（水戸市産業ビジョン抜粋）

４　会議の内容

【１　開　会】

○事務局　定刻を過ぎてございます。まだお見えになっていない方もいらっしゃいますが，ただ今から，水戸まちクリエイター・ワークショップを開催させていただきます。

本日は，御多用の折にもかかわらずお集まりいただきまして，誠にありがとうございます。

なお，本日，水戸市の専門部会委員の方，報道の方が入っておりますので，あらかじめ御承知おき願います。

それでは，まず，はじめに，高橋靖水戸市長より御挨拶申し上げます。

【２　市長あいさつ】

○市長　皆さん，こんにちは。水戸市長の高橋でございます。

水戸まちクリエイター・ワークショップを開催させていただきましたところ，皆様方には，御多用中にもかかわらず御出席いただきまして，本当にありがとうございます。

また，ワークショップのメンバーとしてお引き受けいただいたこと，心から感謝を申し上げる次第であります。

もう皆さん，耳慣れた言葉だと思いますが，まち・ひと・しごと創生，最初は地方創生という言い方をされておりました。国，県，市町村，それぞれの動きが徐々に活発化されてきました。最初は，創生という言葉で一体何をやったらいいのだろうかという戸惑いがあったのですが，実はそれが払拭されているわけではありません。戸惑いの中で，水戸市も，平成 27 年度中には地方版総合戦略，あるいは人口ビジョンをつくり上げていかなければなりません。

そういう意味において，今，水戸市では，庁内に，推進体制，あるいは市民の代表者であります有識者会議を設置させていただいて，そこでまた具体的に議論をさせていただくことになりますが，もっと多様な意見を頂きたい，あるいは，政策の発生源を多様化していきたいという思いがありまして，このたび，水戸まちクリエイター・ワークショップを開催させていただいたところであります。

メンバーは，皆さんそれぞれ横を向いて顔ぶれを見てください。それぞれの分野で，ある意味，特殊な活動をされている方を，今回，独断と偏見で選ばせていただきました。つまり，今日，皆さんに期待したいのは，当たり前の意見は要らないです。ああそうだったのだと後ろの職員が本当にうーんとうなずくような意見を皆さんに頂けたら有り難いなと思っております。

したがいまして，今回の水戸まちクリエイター・ワークショップは，市民の意見を聞くといういわゆるガス抜きとアリバイでやっているわけではありません。本当に皆さんに水

戸市を助けていただきたい。水戸市を皆さんのアイデアで良くしていただきたい。そういう強い思いがあって開催させていただいているワークショップであります。皆様方にはその趣旨を御理解いただいて，今日は，自分の意見が職員も私たちもうなずかせて，そして，総合戦略とか人口ビジョンの中に１つでも２つでも採用されるような御意見を頂ければと思っております。

今回，私たちも本気度を皆様方にお示しさせていただきたいと思っているのは，かつて，首都機能移転の議論もありました。閣議決定までされたものが，いつの間にか消え失せてしまって，その間，実際に何が起こったかというと，東京を見ても分かるとおり，マンションがぼんぼん建って，六本木ヒルズができる，東京ミッドタウンができる，虎ノ門ヒルズができる，今度は渋谷に日本で一番高いビルもできるそうでありますし，また，豊洲の開発もあれば，大手町も開発されるそうで，山手線には新しい駅もできるということであります。どこが東京一極集中の是正なのかなという思いもあります。

ただ，私たちとしては，そういうことをひがみ，やっかみで見ているばかりではなく，自分たちで生き残ろう，自分たちで勝ち抜こうと。都市間競争という言葉には賛否両論ありますが，都市間競争などやめて，みんなで仲良く手をつないでゴールインしようという議論もあるのですが，やはりこの社会でありますから，しっかり競争して，水戸市が独自性を持って，あるいは，特徴ある政策を持って，市民の幸せとまちの発展を自らが導き出していかなければ市民の負託には応えられないし，定住促進という意味においても，いいまちでなければ人は呼び込めないし，住んでいただけないわけでありますから，水戸市は独自の強烈な総合戦略と人口ビジョンをつくって勝ち組になりたいと思っています。

先般，新聞で「水戸市陥落」という言葉を大見出しでやられてしまいました。土地が下がって２番目になっただけで陥落という言葉を使いました。やはり悔しいじゃないですか。水戸だったら悔しいという思いを持って，これからみんなでまちづくりを進めていきたいと思っております。

あまり私が長話すると，今日は限られた時間でありますから，皆さんに多くの意見を出していただいて，それが今までにない奇抜な，あるいは，良い意味での突拍子もない意見であれば有り難いと思っておりますので，皆さんの今まで積み上げてきた様々な活動から得たものをここでさらけ出していただいて，皆さんの頭脳と技術と腕前を水戸市のために出し切っていただければと思っております。

限られた時間ではありますが，中身の濃いワークショップにして，ここから新しい水戸市が発信されることを心から願って，私からのお礼を兼ねました御挨拶に代えさせていただきたいと思います。

どうぞ皆さん，よろしくお願いいたします。お世話になります。

【３　参加者紹介】

（参加者から順次自己紹介）

【４　水戸市のまち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的方針について説明】

（配布資料に基づき事務局説明）

【５　意見交換，懇談】

○事務局　ただ今事務局から説明させていただきましたとおり，地方創生は様々な分野からのアプローチが必要になってくると考えております。

今回の水戸まちクリエイター・ワークショップにおきましては，テーマを「魁の地方創生を目指して　水戸のにぎわいを創る」といたしまして，主に，観光振興を始め交流人口の増，まちのにぎわいをつくるためにはどのような施策を展開していくべきなのか，こういったことにつきまして，高橋市長をコーディネーターといたしまして御論議していただければと存じます。

それでは，高橋市長，よろしくお願いいたします。

○市長　それでは，しばらくの間，コーディネーターの役を務めさせていただきたいと思います。

今，観光振興，あるいは交流人口の増，まちのにぎわいというお話をこちらから投げかけさせていただきましたが，例えば，人口ビジョンをつくる中で，定住化策，いわゆる交流人口を増やしていくことばかりではなく，まず自分たちのまちに住んでもらうということ，そのためにはどういう施策が展開されればいいかということも含めて，皆さんの御意見も頂ければと思っております。

まず，こういう議論ですから，ここで皆さんに手を挙げてということでは，なかなか議論が深まらないと思いますので，きっかけづくりとして，順番に，今まで自分がやってきた経験から，今，私たちが投げかけさせていただいたテーマについて，こうすればこういうふうになるということをそれぞれの立場で述べていただければと思っております。

12 人ですから，５分ずつしゃべっていただいても１時間かかりますが，５分ぐらいしゃべっていただかないと思いは通じないと思いますので，今日は私も時間をたっぷり取ってきたつもりでありますので，先ほど自己紹介していただいた順番で，____さんから，４～５分程度で思いを御披露いただき，その後，自由討議にさせていただきたいと思います。

○____さん　トップバッターで非常に気が重いところもありますが，私は，水戸の中心市街地の泉町の商店街の役員などをさせていただいております。自分の会社はデザイン事務所で，後方からまちを元気にできないかということで活動させていただいています。

私は，水戸に戻って 12 年，その前の 10 年間は東京暮らししておりました。ですから，22～23 年前は水戸にいて，学生時代は水戸におりましたので，まちなかが，すごい人でにぎわっている状況は非常によく理解しておりまして，10 年いなくて帰ってきたら人がいな

くなったという状況を目の当たりにしているということで，いろいろ活動させていただいております。

イベントもいろいろやってきました。後方活動もいろいろしてきました。最近では，ハードということで，ヴィレッヂ 310 とか，泉町会館の改修とか，いろいろなことをしているのですが，そういう活動をしながら思うことは，ただただイベントをしているだけでは，一時的に人は来るけれども，住む人が増えるところまではなかなかいかないというのが一つあります。

コミュニティスペースをきっちりと動かすことによって，そこを利用する方が増えていき，まちの中にいることが楽しいとなってくると，まちに住みたいとなってくるのかなとヴィレッヂ 310 をやりながら思っているのですが，若いころの自分も自分の周りもそうですが，目標は何ということでなくても，水戸のまちに来れば楽しいということで来たり，そういうところの近くにいたいということで住んだりという状況が多々あったのかなということを思い出しながら活動しています。

これはどう話しても鶏と卵になってしまうので難しいのですが，人に住んでいただくには，便利で楽しいまちでなくてはいけないので，その辺は商店街が中心になってと今は言えないような状況だと思うのですが，まちなかにいろいろな拠点といいますか，楽しい場所といいますか，そういうものをもっと増やしていかなくてはいけないと思います。

あとは，逆に，まちに住むといってどこに住むのだ。今はマンションが結構できてはいますが，決して安いものではないということと，古いマンション・アパート系住宅は，割とリノベーションもされずに汚いままの状態にされているという状況もあると思いますので，例えば，リノベーションということで部屋をきれいにして，できるだけ廉価でそれを貸してあげるとか売るということで住人を増やすという手もあると思いますが，住人を増やした時に一番問題になってくるのは，通常の生活をしていくのに，果たして水戸のまちは便利なのかというと，日用品が買えるような場所とか，子育て関係の場所とか，どうしても何でもかんでもの話になってしまうのですが，全部連鎖してくることだと思うので，高橋市長も前の期からおっしゃられていますコンパクトシティということで，中心市街地にそういうものを一通りは揃えていって，人が住み，生活し，働けるようになって，それを徐々に広げていくという形をとるのが一番良いのかなと思っています。

最近では，先月，香川県高松市の丸亀商店街に行ってまいりました。そこは商店街が主体になってまちづくり会社をつくって，７区画ぐらいのところですが，自分たちのまち全部をモールのようにしてしまって，下の３層ぐらいはショップ系，３階から５階ぐらいが医療施設とか企業などが入って，その上はアーケードで隠れているのですが，マンションになっているのです。全体で 400 戸つくろうということで，今は 200 戸，半分ができている状態ですが，それは既に完売です。そのほとんどが高齢者の一人暮らしとか御夫婦がお使いになっている。

この間，そこの理事長にお話を伺ったのですが，もうこのまちで死ねるよという状態，死ぬまでこのまちにいてくださいと言えるような状態までつくって，そのまちに住んでもらっているのだという話をされていたのですが，全くそうなのです。

僕の母方がお寺なので，先日，お寺の行事があって，お寺さんは高齢者の信者さんが多いので，いろいろお話を伺ったのですが，ある程度，年になると，買い物に行くのもなかなか大変だよねと。それに車も乗れない，自転車も乗れない。だったら，ちょっと歩いて行けるようなところで日用品が全部揃っているような環境にいられて，その近くに医療，ちょっとした治療がすぐ受けられるような場所があれば，もうそこで死ぬまで暮らしていたいという話があるので，高齢者という意味ではそういうものも大事だと思います。

あとは若者，これから子どもを育てる場合には，どれだけ安くまちの中に住めるかに尽きると思うのです。便利なのは当たり前ですので，その辺を総合的に考えていかないといけないのかなと思いながら，今，我々がいろいろ活動している中でも，丸亀の考え方というか，やり方は非常に参考になるということで，今後の活動を続けていきたいと考えております。

○市長　ありがとうございました。

____さん，いかがでしょうか。

○____さん　水戸まちなかフェスティバルをやらせていただいていまして，これはいろいろな構想があるとは思うのですが，年間の中でメイン通りが歩行者天国になるのが黄門まつりしかなかったので，週末はメインストリートを歩行者天国にしましょうという構想も諸先輩方の会議の中であったということを聞いて，それいいですねと言ったことがあるのですが，１年に一遍しかなかったものを，水戸市がたまたまやるということで，その日はうちの学校の文化祭だったので，では一緒にやりましょうということになりました。

ところが，それをやってみますと，うちのスタッフが，うちの学校の前から大工町まで区割りをしているわけです。徹夜で仕事をしていまして，いいかげんにしてくれと怒ったことがありました。本業の学校が成り立たなければ，ここから撤退しなければならないのだからねと怒るぐらい延々と水戸まちなかフェスティバルの仕事をやっていました。

私は何が言いたいかというと，冒頭に申し上げましたように，社会に貢献するのがデザインの仕事だからねと学生に言っている割には，先生何ですかという話です。ただ，問題なのは，そこに成り立つということは，利益が非常に大事だというのを私が言いたい第１点です。私は補助金という言い方も嫌いなのです。なぜかというと，補助金をもらう側は，返さなくていいものという意味合いなのです。私は，水戸市だけは，強気にそれを投資と言うとか，言い方を変えるだけで，それを水戸市に返してあげなくてはならないと思うわけですから，今日はそういう過激な発言の方が喜ばれるのかなと思って申し上げますと，利益をきちんと考えることが大事かなと思います。

第２点は，「しごと」と「ひと」と「まち」を３つの円で考えてみて，デザインの考え方では，その３つのサークルが交わるところは何かを考えていきますと，その３つが交わる点があるのではないかと思っています。水戸のまちの中で何が必要か。水戸の中には産業

がない。水戸のまちの人たちは商売っ気がないとよく言われています。水戸には本社がない。支店しかないのではないですかと。そういうことも含めまして，一番有力なのは，人を育てることが大事かなと思っています。人を育てるのですが，どんな人が足りないかというと，私の呼び方でいうと，クリエイティブリーダーを育てるのが第２点目でございます。

一般のリーダーシップの本を書かれている95%はマネジメントのリーダーシップ，つまり，会社の中でいつの間にかリーダーになってしまったから困ったなという本がほとんどなのですが，本当のリーダーは一番最初にそれをやろうと考えた人です。爆発的な力を持ったリーダーを，私はクリエイティブリーダーと呼んでいるわけですが，それを本気で育てることが一番大事ではないかということから考えると，水戸市は大学院をつくるのはどうかと思います。というのは，クリエイティブストリートをつくりましょうとか，今，いろいろ考えているのですが，クリエイティブな人たちに集まってもらうのはコンドミニアムとかはどうですかとかやっていますが，大学院としてしまうと，その大学院はクリエイティブリーダーシップを学ぶような場所で，ぼんやりとした目標でクリエイターを集めましょうというのではなく，水戸市が投資をして，学費を払って来てもらうということで，その中からいろいろな種類の専門を学んだ学生たちを集めまして，そこで何ができますかというのをデザイン的な思考で考える。そこでベンチャーな企業を興してもらう。でも，難しいですが，その中の100人に１人が形になったお店になると思います。100人の中の１人でも，天文学的な数字になりますが，1,000人に１人が500人以上の企業になると思います。１万人に１人がジョブスになるのではないかというジョブスを生む計画なのです。

それは，丸亀の話が＿＿＿君から出ましたが，これは丸亀を抜く破壊力があるのではないかと思っています。ですから，そこに投資をしていただく。ところが，ラッキーなのは，大学院は文部科学省から正式に補助金が出ますので，運営をして，そこで本当にビジネスを立ち上げる人たちを育てる。そして，空き店舗を利用しながらやれるというコストのかからないやり方でやっていけば運営が可能ではないかと思っております。

そういう意味では，水戸から産業を育てていく，人を育てていく。表層だけ育てようというのではなく，育てるというのは愛情が必要で，頑張れよと言ってやらなければ育たない。でも，起業家を育てるとなると，何千人に１人，何万人に１人のすばらしい人が出てくる。ただし，アメリカはそれをやっていますからすごいと思います。ですから，それが遠回りのようで，ものすごい破壊力を生む近道だと私は思っております。

○市長　ありがとうございました。

＿＿さん，いかがでしょうか。

○＿＿さん　私，今日は，水戸構想会議という団体がございまして，そちらの役員の立場で参加させていただいておりますので，資料を用意させていただいたのですが，こちらに沿って早足でお話をさせていただきたいと思います。

水戸構想会議でいろいろな提言をさせていただいたのですが，私が直接関わったものといたしましては，廃校になった山根小学校の周辺の再開発プラン，あるいは，再生エネル

ギーによる地域の電力会社プラン，国際映像祭プランということで幾つかの提言をさせていただいているのですが，それ以外で，今後具体的な提言を予定していた諸項目のアウトラインを箇条書きさせていただいております。

商工会議所の中心市街地活性化協議会の産業再生部会にも参加しておりまして，そこで申し上げてきたものにかぶるところもあるのですが，そこの委員長の____さんからも，今日，そこを強調してくれと言われておりますので，その辺りも含めてお話をさせていただければと思います。

まず，これから先，まちをつくっていくに当たって，まちづくり会社ができてくるのかなと思うのですが，まちづくり会社をつくっていくことになったら，若い起業家の起業のきっかけとなる仕事の出し方をする会社にできないかと考えております。クリエイティブ産業のふ化装置と書きましたが，若い人が仕事のチャンスを与えられて，ある程度の失敗を許してもらえる。クリエイティブワーカーが経験を積めるようなプログラムをあらかじめ設計しておいて，例えば，文化施設ができたものの運営委託とか企画みたいなものがあると思うのですが，そういったものを積極的に若いクリエイティブな人たちに発注していくという仕組みをつくることで産業化のきっかけをつくっていく。まちづくり会社をつくることで，起業家がどんどん出てくるような経済的な仕掛けをしていくことが重要なのではないかと思っています。また，新しい挑戦をして，成功していけば，将来的には，まちづくりそのものを１つの水戸の新しい産業として，コンサルティングでもいいでしょうし，インフラ開発そのものでもいいのですが，そういったものを１つの水戸のソフト産業にしていくことが考えられないかと思います。

２番目は，食のまちを強調していくべきだと考えておりまして，クラフトビールや有機野菜，自家焙煎コーヒーと書いておりますが，若い人たちの飲食ベンチャー，農業ベンチャーを支援する。例えば，ビールをつくることになれば規制緩和が必要になってくると思うので，規制緩和を含めながら，製造小売，産地直送レストランなどの集積を目指していったらどうかということでございます。

３番目は，自転車や徒歩で回遊できるまちになっているかというと，非常に歩きにくいし，自転車でもストレスがある。自転車を持って，このまちに来て自転車に乗ろうという人はなかなかいないのではないかと思いますので，道路を整備して，その周辺も面白くなくてはいけないと思いますので，スポーツ関連のギャラリー，ビストロなどユニークな店舗や文化施設の集積をできるだけ低予算で推進して，ここからもベンチャーが生まれてくるような仕掛けができないだろうか。世界レベルで注目されている自転車のロードレースを誘致して，それをきっかけに開発をしていくのはどうか。

また，最近よく話題になっておりますが，大阪の中之島とか東京の隅田川沿いのウォーターフロント開発，恐らく，河川法を規制緩和していかなければいけないと思うのですが，川沿い，湖周りの開発は非常に人に魅力的なものになっていくと思いますので，その辺りを重点的に行ったらどうかと思います。

４番目は，質の高い文化の分かりやすい集積拠点をつくるということで，例えば，アマンとか二期倶楽部のような滞在型リゾートホテルを都市型公園の中に誘致するということです。そこで，スパ，代替医療，アート，音楽，祭りなどを滞在客のニーズに合わせてパッケージ化していくことで，お金持ちがお金を落としてくれるような場所も必要だろうと思いますし，また，質の高いクリエイティブが生まれた時に，経済的にも評価できるような場所が必要ではないかと思います。

５番目は，これは私自身の実感なのですが，高速道路が少し遠すぎるので，自動車専用道路を地下でもいいから通してほしいということです。

６番目は，これから世界遺産になっていくということで水戸学に注目が集まってきますが，現代語訳がない。「大日本史」や会沢正志斎の「新論」などの現代語訳を進めてほしい。

７番目は，今，短編映像祭が水戸芸術館でやられておりますが，映画を撮るのはお金がかかるのです。例えば，インデペンデント映画（自主映画）の盛んなまちはアメリカなどでも注目されるまちになっている。それは，監督，俳優，美術，音楽の若い才能が市内に集まってくるということになると思います。

先日，台北の映画祭に行ってきたのですが，台北では２億円ぐらいかけて 300 人ぐらいのスタッフで 100 本の映画をやっていました。これの５分の１でもいいので，例えば 4,000 万円かけて 20 本の映画を作る。そして，世界中の若い映画関係者を呼んで，賞を与えて，それを世界に発信していく。映画のまちにしていくのは，なかなかハードルが高いかもしれませんが，日本の地方都市で成功しているところがないので，国際芸術祭をいろいろなところでやられてしまっていますから，映画祭を使ったまちおこしがあるのではないかと思います。

８番目は，過去にいろいろな有名人がいましたが，例えば，会沢正志斎がどういう人なのかをまちなかで調べようと思っても，ちゃんと調べれば図書館とかにあると思うのですが，滞在客の興味を満たせるような，金沢などにはそういう場所がたくさんあるのですが，回遊性を起こすために，小型の資料館とか博物館を分散化するのは面白いのではないか。

９番目は，伝統工芸や技術がどんどん失われていますが，それを再生して，古い技術，古い工芸を体験化，商品化できるような専門家を養成する。また，水戸藩でくくれば，近隣都市とも提携していけるのではないかと思います。

10 番目は，来年行われます県北アートフェスティバルはそれなりの規模になると思いますが，世界中から人が来ると思うので，アートによるインバウンドの可能性を追求するためのきっかけとして，水戸芸術館がございますから，連動企画，情報発信，これは継続性があるのかどうか分からないのですが，水戸に滞在してもらって，アーティストに活動してもらうところがあるのではないか。

11 番目は，非常に大胆なのですが，水戸芸術館は，水戸市の予算の１％ぐらい使っていると聞いていましたが，芸術館はそれなりに価値があると思うのですが，若いクリエイターに１％のお金を発注していった方が産業化につながるのではないかと思っております。ひとまとまりのクリエイティブクラスが，水戸のまちで生活できる最低限の報酬が得られ

るような予算を組んで，市がクリエイターに対して仕事を発注していくという経済システムをつくれば，まちの中にチャレンジングな若いクリエイターがどんどん住んでいけるのではないかと思います。

12 番目は，人口を増やしていかなければいけないということで，まずは，一番有効性が高いのは子どもの生みやすいまちです。私も子どもの生みやすいまちというのはどういうまちなのか何とも言えないのですが，水戸が子どもの生みやすいまちであるかどうか難しいので，その辺をいろいろな形で実現していく。日本一子どもの生みやすいまちというふうに標榜できれば非常に良いブランディングになるのではないかと思います。

13 番目は，近隣都市と開発ネットワークをつくりましょう。

14 番目は，ＴＸでつくばと水戸をつないだ方がいいのではないですか。

15 番目は，水戸からいろいろなクリエイターが出ていると思うのですが，そういう人たちが，どこで何の仕事をしているか全然分からないわけで，水戸出身のクリエイターのネットワークをつくって，新しい店をつくりましょう，新しい仕組みをつくりましょうといった時に，ネットワークの中で人を選んでチームをつくれるようなクリエイティブなコンサルティングのチームを編成できないだろうかということです。

最後は，水戸には良い小道，坂，泉，森，川辺があるのですから，そこにキャッチーなネーミングをするなり注目させるような仕組みをつくって，グリーンツーリズム，歴史ツーリズム，アートツーリズムを融合させて，まちに来ると楽しいと思わせるような開発を外国語対応もしながらやっていったらどうかということです。

最後に，まちのイメージの写真を付けさせていただいておりますが，そこに水戸の弘道館の写真なども入れておりますが，こういうふうに並べていくと，水戸のまちというのは非常に楽しいなと，キャッチングなイメージングはとても大事なのではないかと思っております。

最近，自分で思うに，家族とまちの中をなかなか歩いたりしませんし，友人をまちに呼ぶこともあまりないですし，例えば，子どもの就職とか学校を考えた時に，水戸というのはもっともっと良くなっていく余地があるのではないかと考えておりまして，非常に失礼な内容になっているかもしれませんが，以上でございます。

○市長　ありがとうございました。

皆さんに少し時間を心配しながら話していただきたいと思います。後で自由討議の時間も設けておりますので，もうここで 30 分使ってしまったものですから，よろしくお願いいたします。

○　____さん　今日はデザインとかアートなどの分野からいろいろな方が出ているので，デザインの分野を言うにしても，紙屋の視点も入れながらお話ししたいと思います。

水戸に 99 年に戻ってきたのですが，水戸芸術館に初めて行った時に，今もやられている高校生ウィークというイベントを奥でやっていました。当時の芸術監督だった逢坂さんに，ぜひ奥を見ていってくれということで，伺って，感想はと聞かれた時に，私の高校時代，水戸芸術館はなかったので，学校でデッサンとか平面構成の勉強をしていると。どちらか

というと変人扱いというイメージだったので，今ここにいる高校生は羨ましいですねという話をしたら，「____さん，何言ってるの。ここにいる人たちはみんなマイノリティよ。」と逢坂さんに言われました。それだけデザインとかアートに対して，一般の人があまり理解を示していないという経験が，その後，仕事でもいろいろ出てきました。印刷会社の方にデザインはどうされるのですかという話をすると，例えば，市の入札物件だと，お金をかけて良いデザインをしても，結局，落札できなければ対価が出ない。当然，デザイン事務所に払うお金もないということになってしまう。そういうことで，落札単価だけでのただのレイアウトされたつまらない印刷物，発行物を生んでしまっているのではないかと思う次第です。

それとは逆に，水戸にいながら東京とかいろいろな所で仕事をされているデザイナーの方は，都内で大手企業などを相手に，価格の安い大日本印刷とか凸版印刷などの大手印刷屋を敵に回して，目の前でクライアントが理解できるものを，その場で提案してしまう。そういう利便性を感じてもらって，大手印刷会社を敵に回して勝負ができるということをやっていらっしゃる方もいました。

ですから，地方の中でも，良いデザインとか良い提案がちゃんとお金になる，東京でいろいろな勉強をした人たちが，ちゃんと戻ってこられる土壌をつくれるような教育，雰囲気づくり，まちづくりがあることがいいのかなと思っております。

ざっとお話ししました。以上です。

○市長　____さん，お願いします。

○____さん　皆さん，水戸を住みやすいまちみたいなことをおっしゃるのですが，私は，大学の４年間は東京で，15 年，東京の会社で働いて，その後に会社を辞めて独立するということで水戸に初めて住みました。親戚も誰もいません。本当にまっさらで来たのですが，水戸は十分住みやすいまちですよ。人もいいし，東京は，乗換えだ何だかんだ，通勤するのに２時間ぐらい前から出なければちゃんと行けないのですよ。水戸は５分，10 分で会社に行けるのですよ。十分住みやすいと思います。

でも，東京に住んで，こっちに来て思ったのは，お店がないのですよね。つまらないというか，行くお店がないのです。そんな話をすると，有名なブランドの店を誘致したらいいのではないかみたいな話になると思うのですが，そうじゃなくて，私はその時にいなかったので分からないのですが，水戸がにぎわっていた時は，近隣の方が買い物に来ようと行ってきたのだという話を聞いていたのですが，そんなものだったのですか。だったら，若い人は面白いお店が好きですから，そこにもっと面白いお店を増やせばいいのではないかと思うのです。

まちなかに住もうみたいなお話もちょこちょこ出ているのですが，子どもには，まちなかは不便ですよ。子どもを車から降ろすのも何するのも，停める所がないですから。だから，まちなかに住むというよりは，まちには商店があってほしいし，大きいものを誘致するのではなくて，個人の活性というか，何といっても創生ですから，それを促すようなことをぜひお願いしたいと思うのです。

私たちが活動していて，助成金はなかなかもらえないのです。一回もらったことはありますけど，その時はありがとうございました。でも，別に要らないと思っているのです。自分でやりくりできていないようなものに助成金を出しては駄目だと思うのです。創生と言っているぐらいですから，自分でエンジンを回していくようなことがないものに出すのではなく，できるのであれば，助成金は，コンペ形式で，いいものだけ採用するみたいにやっていただいた方がすごく有り難いし，納得すると思うのです。

その中で個人の活力というか，ソフトバンクの孫さんが，あまり知られていないような株をばんばん買うのですってね。その中で１個当たればいいやぐらいの話じゃないですか。10 にお金をかけるのではなくて，少資金で皆さんが創業して，活性化できるようなシステムがあると勝手ににぎわうのではないかと思っています。

そんな中で，仕事の創生という話が出ているのですが，私はこれもすごい違和感があって，世の中は人手不足です。本当に人がいないです。サービス業を中心に，中食とか外食のマーケットがどんどん広がっているのに，それに対応する人がいなくて，食中毒とか異物混入のリスクがどんどん高まっています。何でこんなことになっているかというと，これは地方にありがちなのですが，９時から５時まで働いて，土日は休みが当たり前という雰囲気がすごくあると思うのです。でも，24 時間，誰かが働かないと社会は動かないので，仕事は多分あると思うのです。ですから，月曜日から金曜日，９時から５時まで働くということを変えてほしいと思います。それを変えるには，土曜日に行こうが夜に行こうが市役所で住民票が取れる。みんな，５時とか６時に仕事が終わるのに，病院はもう６時に終わっているわけです。それでは救急車を呼ぶに決まっているじゃないですか。それで不謹慎だ何だかんだって。システムが全然違うと思うのです。ですから，そういう雰囲気づくりをしてもらえれば仕事は多分一杯あるのです。

それが住んでいて思う事柄です。

○市長　ありがとうございます。

では，____さん，お願いします。

○____さん　私はご当地アイドルの分野から，アイデアというか，考えを申し上げますと，私は中心市街地で生活をしているのですが，中心市街地は既にかなり疲弊している状態だと思います。見渡せば 100 円パーキングや空き地という状態で，これはどうしたものかなと思ってずっと考えていて，３年前にご当地アイドルを立ち上げました。

ご当地アイドルをどうして立ち上げたかというと，黄門まつりや水戸フェスのイベントをやっていく中で，年に１回のイベントを，商店街の人たちがただ待っていてもどうしようもないと私は思ったのです。毎月，毎週，毎日のように人が集まれる拠点ができたら水戸のまちなかにいいなと思って，私はアイドルに全く興味なかったのですが，ご当地アイドルを立ち上げました。ご当地アイドルは，活動すればするほど人気が出てきて，北は北海道，南は長野から熱狂的なファンの人たちが水戸にライブを見に来るようになって，水戸のまちなかに遊びに来るようになっていきました。

私がご当地アイドルを立ち上げた理由は，私のお店の隣にリードシネマという映画館があって，そこが震災よりかなり前に居抜きの状態で空箱になっている。まずそこに人が集まれる拠点をつくろうというので立ち上げたという感じなのです。

あれやこれや一生懸命頑張っている最中に，リードシネマが更地になってしまったので，それはどうしたものかということで，丸井，エクセル，ヤマダ電気なども活用できないかと水面下では交渉しているのですが，ご当地アイドルをやっていて，東京から，全国からたくさんの人たちが誘致できればいいなとつくづく思っているところです。

その成功事例として，愛媛のアイドルさんなのですが，東京で毎月ライブをやる。ＡＮＡと提携して，専用のジェット飛行機で東京の人たちを愛媛に連れていくことをやっていたり，新潟のアイドルさんは，専用列車を使って，東京の人たちを新潟に連れていくという観光ツアーも交えての活動をしているので，水戸のご当地アイドルの将来あるべき姿はそういうものかなと私は思うのです。

ご当地アイドルからいうと，水戸のまちなかに箱が欲しい。そうすれば，そこから回遊して，アイドルさんがじかに水戸の商店街を紹介するというシステムをつくりたい。しかし，まだ道半ば，全然駆け出しのスタート地点にも立っていない状態ですが，今いるファンを踏まえて，水戸のまちなかに回遊性を持たせたいということを考えているところです。

第１希望としては，市民会館のそばに計画が本筋になってもらえたらなと思っています。ご当地アイドル専用のライブができる場所，安心してファンの人たちが集まれる場所です。私はコミケ（コミックマーケット）実行委員会のメンバーだったのですが，オタクの人たちは，アイドルが中心でまちをきれいにしようと旗を振ったら，ファンの人たちもまちなかをきれいにして帰るのです。コミケの時もそうでした。そういう世界を水戸のまちなかに活用できて，水戸のまちなかでの購買につながればいいなと思っています。結論はまだまだ先なのですが，人の集客を使って水戸のまちなかの活性化につながればいいと思います。

○市長　ありがとうございます。

では，____さん，お願いします。

○____さん　私からは，あおぞらクラフト市の運営と，それに便乗していくような形の提案ができないかなということでお話しさせていただきたいのです。

まず，クラフト市は 2009 年から始まっていますが，当初は，クラフト市がそんなに行われていなくて，そこまで集客がなかったのですが，ブームに乗って，次の回で 13 回目を迎えますが，年２回，１万人ぐらいになってきました。なぜそういうふうになってきたのかなと考えてみたのですが，場所をシェアして開いているというか，どうぞ使ってくださいという状態にして人を呼び込んでいる。そこをシェアした人がまたそのお客さんとか友達とその場所を共有するという仕組みになっているのではないかと思っています。これはシェアハウスとかシェアオフィスなどとも通じるような考え方かなと思うのですが，シェアしているのだなと思った時に，自分がそこはやってはいけないかなと思ったのは，あまり場所をつくりすぎないということです。あまり決めすぎない。どんどん固めすぎていくと，

与える側と与えられている側に分かれてしまって，権威的になったり従属的になってしまう。そこを感じさせないぐらいのさじ加減でバランスをとりながら運営しています。ですから，場所をつくった時に，こうですというようなやり方とか，ここを使いなさいみたいなやり方はもう古いというか，あまり受けないのではないかと思います。

それから，今，１万人ぐらいの人が２日間にわたって来ているのですが，それを商店の方々は分かっているのですが，そこに便乗して何かをやろうということを言ってくる方はほとんどいらっしゃらないのです。それはなぜなのかなと思います。私が水戸芸術館を会場にしていろいろやろうと思ったきっかけは，水戸芸術館に年間何十万人という方がいらっしゃっているにもかかわらず，そこに便乗して何かをやるという商店の方があまりいらっしゃらなかったのを疑問に思って，フリーペーパーの巻紙などを展開していったということがあるのですが，その辺の意識改革ではないですが，関連付けて何かを売るということをきちんとやっていただくと，まちとしての一体感が出てくるのではないかと思います。

○市長　では，____さん，お願いします。

○____さん　私からは，一杯あるのだけど，２つぐらい。

１つは，建築家という立場から言うと，景観を少し申し上げたいのです。確かに活気があるうんぬんはいいのだけど，僕からすると，美しいまちというのもいいものだと思うのです。それを考えた時に，手法論的な話になると，前から随分言っているのですが，清水港がすごいのですよね。景観を自主的に直しているだけで，年間 80 万人来ていた人が 10 年間で 800 万人になったのです。公共の金は一切出ていないです。補助金など全然出ていないです。みんな自主的にやっている。

どうしてそんなことができたのかというと，リーダーは東海大学の東先生ですが，そのリーダーが最初は女性だけを集めて会議をやって，そこからその輪をどんどん広げて，みんなも賛同するような景観の目標を定めて，最終的にこうなるよみたいなものを見せたところ，いろいろな企業が乗ってきて，ヤマダ電気が出店した時は，住民がみんな反対して壁を塗り替えたとか，そういうすばらしい話があるのです。

そういうふうに，まちごと景観とか色彩を変えていくというのは相当大変で，当然，行政だけでできる話ではないし，全員がそういう意識を持たなくてはいけないのですが，それに当たっては，清水港は，とりあえず，景観アドバイザーという制度をつくってやっているのです。この地区は，景観アドバイザーの了解を得ないと建てられないという制度をつくったのです。それが非常に成功した。細かい手法はいろいろあるのですが，まず１つは，ある程度，景観をコントロールしたいという思いがあります。

もう１つは，特に夜景は非常にコントロールしやすいのです。有名な温泉街では，例えば，湯布院はまちの照明計画を変えたら観光客が倍増したのです。やはりきれいなところはみんな住みたいと思うのです。そういう意味では，景観に対するいろいろな施策とか制度設計をもう少し考えていった方がいいのではないかという思いはします。道路の照明も，ちょっと前は水銀灯が一番安かったので，水銀灯は真っ白な光なのですが，全部水銀灯に

しましたが，通りによって，それに見合った街灯の色にするというだけでも全然違います。それが１つです。

もう１つ，全然違う視点ですが，最近，空き家対策特措法ができて，空き家を置いておくと壊さなくてはいけないという制度ができて，来年，施行されるのです。それに伴って，今，全国でいろいろな議論がなされているのですが，特にシェアハウスという話が多くて，私はこれに非常に興味があるのは，私の娘が茨城大学にいるのですが，うちの娘は自宅から通っているのですが，地方から来た茨大生がシェアハウスをやっていて，それがサークルのたまり場になっていて，部室みたいになっている。そう考えると，別に茨大の近くでなくてもよくて，まちなかでいい。彼らはぼろくても全然構わない。前に市に聞いたら，市が運営するのは厳しいみたいな話をされたのだけど，ぜひやりたい。

シェアハウスの話で非常に注目しているのは，さっき，水戸は住みやすいとおっしゃっていたけど，僕もＵターンで 10 年ちょっと前に帰ってきて感じるのは，Ｕターンの私ですら結構排他的だなと思うのです。私は業界で非常に評判が悪いですね。そういう排他性を 180 度変えて，マイノリティの人を受け入れるという土壌を表明してはどうか。僕がちょっと前まで言っていたのは，セクシャルマイノリティの人を受け入れますと宣言したらどうだみたいな話をしていて，みんなにひんしゅくを買ったのですが，渋谷区にやられてしまって，もうニュース性がないなと思っています。でも，宣言するのはただでできてしまう。

あと，金曜日に見てきたのだけど，シングルマザー専用シェアハウスがあるのです。これは川崎に見に行ったのだけど，８組入っていて，首都圏出身の人は半分，あとは新潟とか仙台から来ている。シングルマザーは人口比で１％ぐらいいるのですが，マイノリティで，非常に虐げられていて，彼女たちが集まって住むことが非常に心強く感じられる。家賃は決して安くないのだけど，そういうのがあるので，シェアハウスとマイノリティの話がうまくリンクして，政策なのか何なのか分からないですが，これは逆にまちづくり会社みたいなものがやるべきなのか，方法論は全然分からないのですが，新たな人を呼び込む。もちろん，前向きでどんどん起業していいのだけども，弱者にもすごく優しいまちなのだというのはぜひ目指したいなと思っております。

○市長　ありがとうございます。

____さん，お願いします。

○____さん　私は食関係のコーディネーターという立場ですが，テーブルコーディネーターという職業を意気揚々と志してみたものの，水戸では仕事が全くなくて，東京，大阪，名古屋という大都市に行っていまして，さらに，水戸では 10 年経てば出てくるかなと思ったのですが，全く出てこずに，とうとう海外に行って，あまり水戸とのつながりはないのですが，そういう点から，ちょっと生意気なことを言わせてもらうかもしれませんが，水戸は刺激を受ける場所がない。ちょっとおいしいものを食べたいな，素敵なものに触れたいなと思っても，まずそういうところはないのですね。

私，仕事はロンドンなのですが，ロンドンに行くたびに，例えば，水戸の有名なようかんとかお菓子を持っていきます。世界から見ても，日本の国内から見ても，大阪で仕事し

ても，水戸って栃木だよねと言われることが多かったものですから，茨城の知名度を上げようと思って，皆さんに茨城のものを食べていただこうという思いなのですが，皆さん，「とらやのようかんよりおいしいわ。」とか言ってくださいます。

私の大きな構想なのですが，今，ロンドンは日本食ブームで，日本人というだけで尊敬されるぐらいすごくブームなのですね。例えば，セルフリッジという有名なデパートがあるのですが，そこで日本展をするとすごくお客さんが来るので，私の夢なのですが，水戸の物産展をロンドンのデパートですれば，水戸という名前がそこで広がるのではないかと思うのです。日本の中でいろいろな地方が競ってもドングリの背比べになるのではないかという思いがあって，いっそのこと海外進出してしまえばいいのではないかという大きな思いがあります。

もう１つ，物質的な面とソフト的な面で，水戸の弘道館が日本の魁の大学として有名なところですが，海外の方と食事をする機会が多い中で，日本に戻ってきて日本の方と食事をして，すごく失礼だとは思うのですが，日本の男性がパーティ慣れしていないというか，食事慣れしていなくて，会話する時に女性を意識しないコミュニケーションになっている。食事の場だけではなく，例えば，エレベーターを降りる時とか，いろいろな場面でレディファーストという精神がなかなか見られないという残念な経験をすることが多いので，いっそのこと，水戸学ではないのですけども，水戸道というか，武士道の精神をレディファーストの騎士道の精神に近づけるためのジェントルマン講座みたいな形でやればいいのではないかと思っているのです。

というのは，イギリスが大英帝国で世界に尊敬されたというのは，もともとジェントルマンを養成したからなのです。あらゆる世界から尊敬の目を向けられるよう，尊敬される人を養成することが大事ではないかと思います。

以前，ある高校で，３年間，食育の授業をしていたことがありまして，子どもたちは教えてあげると素直に聞くのです。今，食べ方ができない子がたくさんいます。お箸の使い方とか，いただきますの意味とか，しつけの経験がなく成長してしまったというお子さんをよく目にします。ですので，私の思いは，水戸市の給食を変えて，食べ方の指導とか，卓育，食育の面から，ただ食べればいいというものではなく，季節のものをいただいたり，いただきますの意味とか，行事ごと，日本の歳時などを取り込みながら文化に触れる。文化に触れるということが，行く行くはおしゃれとかクリエイティブな面が育ったり，情操教育の部分として成長するのではないかと思います。

茨城は素材が多いのですが，すごくおしゃれなものに欠けているというのが率直な意見ですが，人が生きるために衣食住がすごく大事なのですが，特に，食の部分という意味では，おしゃれなレストランをどんどん増やして，質の高い，拠点になるような場所をつくっていただきたいと思います。

もう１つ，私の前職関係の知り合いには，国際舞台を中心に活動していた人材がたくさんいるのですが，退職した後に，意外に何もしていない方が多いのです。すごくもったいないと思うので，さっき，大学院をつくるという話も出たと思いますが，日本を代表する

高学歴の方たちがざわざわいますので，そういう方の活力も借りていろいろなことができるのではないかと思います。

最後に，１つ思ったのは，今，富山ですごく注目されているレストランがあるのですが，わざわざ東京から食べに行く。私もそうなのですが，ミシュランの星がついたものはわざわざフランスの片田舎でも食べに行きます。水戸にそれぐらいの何か１つ目玉をつくって，さらに給食から変えるという方法は，食に興味がある子どもに対して留学制度を設けて，例えば，クールオンブルとかリッツがフランスの有名料理学校なのですが，そこに水戸市から代表で留学させるようなシステムをつくれば，もしかしたらお母さんたちも，水戸は給食もいいし，留学制度もあるから移り住みたいということも出てくるのではないか。

具体的なことがいくつかあるのですが，今お話ししたいのは以上です。また思い出したらお話しさせていただくかもしれません。

○市長　では，____さん。

○____さん　私の場合は，どうしてもウェディングの話になるのですが，その前に，アルベトレッペをなぜつくったかということですが,私は茨城に住んで25年以上になるのですが，水戸ってどこにあるの，栃木，群馬，東北と冗談のように言われていて，いいものが一杯あるのに，誰も何も知らなくて，自分が仕事をするようになって気がついた６～７年前にいろいろ調べると，こんなにいろいろな農産物があって，いろいろな産業があって，何で誰も知らないのだろう，何で誰も自慢しないのだろうと思ったのです。もっと自慢すればいいのにということを言っている間に，５～６年前に，同じように，そうだよね，茨城は一杯いろいろなものがあるよね，水戸にも一杯いろいろなものがあるから，もっと出していこうよということで任意で集まるようになって，茨城にはいいものあるべ，いいものとれっぺということで，イタリア語っぽくつくらせていただいたのがもともとのきっかけだったのです。

女性の立場からいくと，水戸から外にお土産を買っていくものが正直何もなくて，どうしても一般的なものになってしまって，別にまずいわけではないのですが，ああすごいねというものがないと思って，水戸から何かお土産物ができて，発信できたらいいなというとても個人的な気持ちから始まった会です。今はサロンという形で，月に１回，水戸だけではなく，茨城のいろいろな方に来ていただいて，お話をしているというのがもともとの始まりで，続けさせていただいています。

私は，90年代に，ダイエーの水戸店に10年間おりまして，まだ起業する前で，パートだったのです。ダイエーが最後の一番すごい頃に見させていただいて，まちなかに人が一杯いて，サントピアがあって，学生がいつも泉町から歩いてきて，ルーズソックスがはやってという頃もいつも見ておりました。毎日１回，必ず外に出て，向かいの常陽銀行に行って記帳したりするのですが，１回出ると，スクランブル交差点に人が一杯で，夕方になると学生が一杯で，当時，まだ水府病院があって，おじいちゃん，おばあちゃんもダイエーに寄って帰るという90年代を見させていただいたので，水戸のまちなかは華やかだなと思

ったのに，今行くと，ダイエー自体がなくなって，とても寂しい気持ちになっているところなのです。

まちなかのいろいろな施策については，専門の商店街の方がいらっしゃるので，時間もないので，ぜひお願いしたいところがあるのですが，私がやっている結婚式に関して言うと，インバウンドを利用したいというのがあって，茨城空港に春秋航空が来まして，90 何％の方が乗っていて，そのままバスに乗って東京に行ってしまうのですが，アジアの人たちは写真に文化を持っていて，写真をすごく大事にしていて，水戸に１泊してもらって，水戸の偕楽園，好文亭，歴史館，千波湖などで和装の写真を撮っていただくとか，水戸の良い所で写真を残していただく。もちろん，それは点ではなく，食事の部分と泊まる部分と全部線でつないでいただいて，１つのプランを市でもバックアップしてつくっていただきたい。これは無理な要望かもしれないのですが，ずっと思っていました。来たくなるような，中国に戻って，ＳＮＳで，水戸って良い所だったよ，こんなとこあるよ，東京や浅草や京都だけじゃないよみたいになってくれればいいなと。こんな近くに空港があるのに，もったいないなと思っています。北海道や沖縄などは，海外から写真を撮りに来てお金を落とすということを聞いていると，水戸でもそういう方たちを呼ぶことができないかと思っています。

今，結婚式の助成金制度を持つ自治体も増えてきています。水戸のように大きな自治体ではなく，ちょっと小さめな自治体が多いのですが，そういうものもぜひつくっていただくと，もしかしたら気に留めていただく。結婚式の助成金は，そこで結婚する方に対しての助成金なのですが，そういうこともしていただくと興味を持っていただけるかなと。

あとは，これは私の夢なのですが，千波湖の花火大会で，水戸のその年のカップルの方から募集して，最初のスイッチを押していただくというと，ニュース性があって，新聞とかテレビ局に来ていただいて，楽しそうだなと思ってもらえるといいかなと。花火大会に招待して，その後，好文カフェの一番前の席で花火大会を見ていただくとうれしいなという個人的な思いがあります。

若い人がそのまちに来て，楽しいとか住みたいという単純なところで，私はウェディングの仕事をさせていただいているのですが，その場所にまた戻ってきます。千波湖で結婚式をした方は，この間，子どもができて，好文カフェに御飯食べに行きましたと電話をいただきました。そういう方が一組でも増えていくことによって，水戸というまちが若い人でたくさんになればいいなと。中高年以上の方の施策ももちろんありますが，コアなことで言うと，若い人が来たくなるまちであってほしいなと思っています。

とりとめなくて失礼いたします。ありがとうございます。

○市長　では，____さん。

○____さん　高橋市長のお題が定住人口を増やすということで，皆さんの話を聞いて考えていたのですが，僕は，昨日，久しぶりに一日丸々休みで，女房と子どもが買い物に連れていけと言うので，車に乗せて東京に行ってしまいました。東京のバーゲンで買い物をしたのですが，多分，それが現状だと思うのです。僕は一人で上野で飲んだくれていましたけ

ど。帰りは女房に運転してもらって，ケーズデンキスタジアムで落としてもらって，ホーリーホックの試合を観戦したわけです。

まちづくりにずっと携わっていて思ったのが，既にあるものを生かすという手法と，新しいものをつくり上げる，大きく分けるとこの２つだと思っています。僕は水戸のまちはすごく好きなのですが，何で好きなのだろうと思うと，水戸の良いところを知っているからだと思うのです。ですから，７年前に水戸青年会議所にいた時に，水戸検定を立ち上げました。全国各地でやっている京都検定などは観光目的でやっているのですが，郷土愛の醸成が目的で水戸検定を立ち上げた次第です。

このまちの歴史やまちなかのいろいろなものを知ることによって初めて水戸を好きになるということですから，このまちに住んでいる人が，自分のまちを好きでなければ，自慢できなければ，当然，まちの魅力も減っていくし，魅力が減るということでは，定住人口の増加は見込めません。今ある弘道館，偕楽園，芸術館，千波湖，あるいはＪ２の水戸ホーリーホックなど，いいものはたくさんあるのです。

僕は，午前中，千波湖周辺をジョギングして，午後から水戸芸術館の美術の展覧会に行って，夕方，ケーズデンキスタジアムへ行って，サッカーを観て帰ってきて，仲間たちと居酒屋で飲んで，何て素敵なまちなんだと僕は個人的に思うわけです。

そういったライフスタイルの提案もできると思うし，インフォメーションとか知るということが一番大事ではないかと思います。ただ，それは努力も必要ですし，先日，水戸市もＣＭを流しましたが，インフォメーションというのはお金がかかりますから，手っ取り早くやる方法を考えなくてはいけないと思うのですが，私は，定住人口の増加は，まず，自分のまちの良さを知るということから始まっていくのではないかと思います。教育も１つありますので，知るということも，子どもたちとか，外部から来た人や観光客にもそういった施策がとれればいいなと思います。

とりあえず，以上です。

○市長　では，最後に，____さん，お願いします。

○____さん　魅力というところで，切り口次第で魅力にも見えるし，全く何も引っかからないで，魅力として認識されないことはたくさんあると思うのですが，切り口をどういうふうに見せるかが大事だと思っています。例えば，私から見て，アウトドアの愛好者という視点から見ると，まちなかを流れている那珂川は，普通に見たらごくありふれた川ですが，カヌーをやっている人から見たら，那珂川は日本一カヌー人口が多い川で，リバーツーリングなどするといい川なのです。初心者でも下れて，景色が良くて，水質もそこそこきれいな川ということで，そういう人から見るととても価値があるものになるのです。

それと同じように，例えば，偕楽園公園でもそうですし，世界第２位の広い面積を持った公園がまちなかにあるなんていうのはごくまれというか，奇跡のようなことで，言葉だけは有名なのですが，第２位の価値を感じている人はそんなに多くないのではないかと思いますが，ああいった公園が自分たちの生活の中で自然と共存しているというか，自分の

生活の中に自然が隣にあるということがどれほど素敵なことかというのは，自然に対するマインドを持たないと感じられないことなのではないかと思うのです。

そういったことを全部ひっくるめて，例えば，アウトドア好きの人にとっては水戸市は天国ですよ。朝起きて，大洗でサーフィンして，帰ってきて，出社することだってできるし，何をやっても，手の届く範囲で生活の一部としてできるというまちです。

今はＳＮＳで自分のライフスタイルとか価値観を配信したい若者が非常に多くて，お店で面白いと思うのが，すごくこだわった商品は売れるのです。価格的にもかなり高くて，デザイン性に優れていて，うんちくが語れるようなものは非常に人気があって，しかもそれに歴史的な背景などが加わると，若い方は，そういったものを購入する自分が感度が高く，そういうことを発信したい若者がすごく多いなとじかに接して感じます。

これは，ある意味，マイナーなものは武器だと思うのです。水戸はまだ知られていない部分がたくさんあって，来て，そこで過ごしてみたら，すごく魅力的な要素を感じると思うのですが，ごくごく当たり前にあるものに価値があったとしても，告知されていないものですからマイナーなのです。それを逆手にとって，通好みの人が価値を感じられるようなものを，逆に武器にしていくべきなのではないかと思うのです。

アメリカでは，コロラド州のボルダーが感度が高くて，自然と健康の価値が重要視されていて，そういったことに価値を持つ人が多く住んでいるまちなのです。同じ価値観を持った人は集まると思うのですが，まちの構造自体がそういったところに目を向けていると自然とそういう人が集まってくる。もちろん，そこには仕組みが必要ですが，どういう人に住んでもらいたいのか，ストーリー性がきちんと整っていないとちぐはぐになってしまうと思いますので，今，歴史などは一本の筋が通って進んでいると思うのですが，もう１つ，環境とか健康の部分でも，水戸市は，十分世界に打って出られるポテンシャルがあるのではないかと思っているのです。

もう既にあるもので十分に一流だなと思うのです。そういうものが整うと，レストランとかショップも需要があるわけですから，感度が高いお店がどんどんできてきますし，有名なところを呼んでくるのでは発展しないのです。なぜかというと，消費者がいないので，消費者がいないと店は成り立ちませんから，環境をしっかりとつくっていくことが魅力あるお店を育てることにもなるのかなと思うので，もう既にあるものの切り口を見つけるというか，いろいろな分野の専門の方はそういう切り口が見えているはずなので，そういったところをしっかりと取り上げていく必要があると思います。

○市長　ありがとうございました。

皆さんに時間の御協力もいただいたところで，これからはフリートークでいきたいと思います。皆さんから，水戸市の良いところ，悪いところ，あるいはポテンシャル，様々な御意見を頂きました。ある意味，何にでも置き換えられるのですが，文化という面でいろいろな御意見が出たと思います。文化的に非常に低い，例えば，____さんから，デザインという文化がないから，そういう商売が成り立たないとか，あるいは，____さんから，お

しゃれさという文化がないということから，よりイメージが高まらないとか，いろいろ出ました。

広い意味になってしまうのですが，水戸市は文化都市と言われて，行政の文化化みたいなことも佐川市長時代に言われていたのですが，文化のまちでありながら，文化という捉え方が非常に漠然としています。ただ，ここを育てると水戸市のアイデンティティが高まって，それが産業につながって，それが仕事につながって，そして定住化が生まれるのではないかということで，水戸の文化をどういうふうに育てていって，それらを活性化につなげていけるかということ，皆さんの話を聞いて，私なりに感想を持ったのですが，文化はいろいろあると思います。芸術ばかりが文化ではなく，先ほど____さんが言った景観とか，水戸市が持ついろいろなポテンシャルがあると思うのですが，水戸の文化とは何なのだということを考えた時に，それをどういうふうに育てて，定住化とか，働く場所とか，人を育てるとか，そういうところにつなげていけるかと思うのですが，水戸の文化とは何だという切り口から，活性化につながるようなヒントを持っている方がいらっしゃったら，ここからフリートークでアイデアを頂戴できればと思います。先ほど申し上げていただいたことの延長みたいな形でも結構なのですが。

____先生，お願いします。

○____さん　____先生からも景観というお話がありまして，先ほど，大学院というお話をしましたが，うちの学生がデザインを授業の中で考えている時に，３年生にこういう課題を出したのですが，「水戸らしさと有用性」です。必要なこと，あるいは産業とかビジネスを考えた時に，水戸を盛り上げるために何がありますかという課題ですが，１つのグループが話し合いながら出した答えがありまして，「先生，水府提灯というのは非常にいいのではないですか」と。これは学生からのアイデアでございまして，私が見つけてきたものではないのですが，今，水戸では水府提灯が３社残っていますが，____先生からありました夜景を照らす水戸ならではの灯りを「ロマンチック水戸」と言ってつなげていく。そして，水戸の文化を産業として残していく。

提灯が１つの看板でもあり，インテリアでもあり，景観でもあるのですが，その辺に何かあるのではないか。学生が探してきた答えではありますが，それが，看板業，インテリア業界，グラフィック業界，建築業界，それから，何かお土産もできないかとか，アイドルに持たせるとか，そういう方策が水戸らしさの中でないかなと思いました。これから出すものもありますが，あるものの中にもヒントがあるのではないかなと思っています。

○市長　ありがとうございます。

どうぞ，____さん。

○____さん　提灯のお話から，忘れないうちに話そうと思うのですが，食文化という意味で，皆さん，お正月にはお箸を代えて使っていらっしゃると思うのですが，お正月に使うお箸と日常のお箸は使い分けされていますよね。そういうように，人日の節句，上巳の節句，端午の節句，七夕の節句，重陽の節句，いわゆる五節句がありまして，その中で，それぞれ，木の素材とか，漆器のグレードが変わったり，お茶碗が変わったりというように，食

文化に通ずる食アイテムなども本来変わらなければいけなくて，その流れとして，提灯とか，お部屋のしつらえとか，茨城でしたら，結城紬とか笠間焼とか，いろいろな県産品の産業もあります。

実は，今，動き出しているプロジェクトに関わっているのですが，____さんと私が役員をさせていただいている団体で，茨城の木材を使って五節句のお箸を売り出そうということで，３年かけて練り込んだものが動き出そうとしています。例えば，お正月，ひな祭りは日本だったらどこでもやっているイベントですが，そこに茨城らしさ，水戸らしさ，例えば，お雑煮だったら，水戸はお醤油味で，こういうものを入れるというような食暦的なものも一緒に考えながら，そういうものが食べられるお店をつくろうとか，１年の暮らしの中にいろいろな文化歳時を練り込みながら。今，忙しくて大勢で食事をする機会もなくて，私がこういう仕事についたのも，子どものころから大勢で食事をしていたということが大きな背景にありますので，食べることは大事だということを次の世代に持続可能なイメージで残せたらと思い，食アイテムの中で文化を入れたいと思っています。

○市長　先ほど____先生がおっしゃった，私たち水戸が文化からお金を生み出せないかということを考えているところで，芸術とかスポーツは金食い虫で，お金を投入するだけのものだろうということで，文化とか芸術は無駄だ無駄だと言われるのですが，伝統工芸品などを活用しながら，いろいろな方々がそこに携わってお金が生み出せるような仕組みができれば文化は馬鹿にされないのかなという思いもあります。

先日，花屋さんとある会話をしていた時に，先ほど____さんがおっしゃったことに通ずるかもしれないのですが，日本の伝統行事をきちんとやってくれれば花は売れると言われたのです。今，若い世代があって，核家族化して，じいちゃん，ばあちゃんがいないものですから，五節句を含めて，季節季節の行事をやらなくなってしまったから，売れるものが売れなくなってしまったというのです。昔の伝統文化をやると，ある意味，お金がかかるじゃないですか。それが見直されれば消費も高まってくることに結び付く。やはり文化を大切にしながら，人々の心の豊かさとともにお金を生み出す仕組みができるのかもしれない。それを水戸市でどういうふうに育てていったらいいかということ，１つの投げかけとして受け止めさせていただきたいと思います。

他に何か自由トークでありますか。

____さん。

○____さん　今の____さんのお話を受けてなのですが，水戸バー・バル・バールというのは飲み歩きのイベントですが，年に２回，金土の２日間，開催させていただいていますが，１回の開催で，下市，駅南，上市全部合わせて参加店が 150 店から 200 店，それは登録している店舗があって，それが毎回参加できるわけではないので，登録店は 300 店ぐらいあるのです。そこに今回参加しますかというお話をして，やりますというので，大体 150 店から 200 店ぐらいが参加してくださるのです。２日間の開催で 3,000 人から 5,000 人ぐらいの方が参加してくださるのです。

ワンパスポートで４チケットなので，１人４店若しくは２人で２店ずつという感じで回っていただけるので，参加店に，お箸の文化とか，一緒に宣伝しませんかとか，これをお客さんに売ってくださいよとか，それは水戸の文化なのであるということで，こちらから発信みたいなことができると思うので，それは次の展開にもつながりやすいのかなと思うので，一言，発信させてもらいます。

○市長　どうでしょう，水戸らしさ，そこから人を呼び込み，定住を促進する。

____さん，２つしか言わなかったというから，言い残したことがあれば，それを含めて。建築の文化でもいいですよ。

○____さん　建築はあまり見るべきものがないのですけど。

ずっと思っているのは，水戸芸術館があって，水戸チェンバーは恐らく世界最高峰の室内管弦楽団で，演劇の人たちに話を聞くと，アマチュアの演劇集団は必ず最終的には水戸芸術館を目指すと言う。そのぐらいステータスがあるのです。あるのだけれど，ずっと言われていることなのですが，それと我々の日常生活があまり結びつかないという気がすごくしていて，なぜなのだろうと思うのです。例えば，劇場の話でいうと，昔は，下北沢の本多劇場があって，その周りに小さいザ・スズナリとかいろいろあって，小劇場群が一杯あったのです。そういう雰囲気が，芸術館を中心に，最高峰レベルでなくていいから，もうちょっと細かいのが周りにできてくれるといいと思います。僕は水戸チェンバーのチケットなんて全然取れないですものね。もうちょっと日常に近いところにすれば，それが今度は市民参加みたいな話にもなってくるのだと思うのです。

幸いにして，市民会館をあそこにという話があるから，それは非常に期待しているのだけど，____さんが言っているアーティスト・イン・レジデンスみたいな話でもいいし，あの辺をそういうふうに特化してしまった方が，いわゆる芸術活動が我々の日常に入り込んでくるのではないか。そうすると，そこからまた次のアーティストが生まれてくるのではないかという気がします。

○市長　芸術館が当初目指してきたのはまさにそういうことだったと思うのです。あの周りにアーティスト・イン・レジデンスがイベント的ではなく，日常的におしゃれにクリエイターが創作活動しながら住んでいただけるという雰囲気をあのまちの中につくっていこうというのがあって，またそういう文化が定着すれば，何らか産業が生み出されてくるということがありますから，それを目指そうとしていましたが，今，普通の元気のないまちなかになってしまったということですが，____さん，関わってきて，どうですか。芸術館の周りのまちづくり。

○____さん　芸術館の周りにギャラリーがあって，アートマーケットが成立しているかというと，東京にはギャラリーは銀座とかいろいろな所にありますが，美術館の周りにあるというわけではないので，おしゃれな雰囲気のまちにしていくことはできると思うのですが，アートマーケットをそこにつくり出していくことはなかなか難しいのだろうなと感じております。

ただ，水戸芸術館の周りが，水戸芸術館がそこにあることによって活性化しなかったかというと，そんなことはないと思っておりまして，周辺で飲食店や洋服屋さんをやっている方々の意識は非常に高いですし，そういうところから泉町界隈のヴィレッヂ310も含めて育ちつつあると感じております。

ただ，芸術館だけでは集客数の力が弱いので，そこで商売をしていこうとしても，商売というのは客数掛ける単価ですから，それだけの集客がないということで，市長もお考えだと思うのですが，人を呼び込む場所が新たにできれば，イオンに行ってしまったお客さんを中心市街地に持ってきて，人が集まれば，そこにまた商売は生まれてくると思うのです。

芸術館は象徴として非常に重要なのですが，次は人を呼ぶための施策というか，それがどういったものなのかは議論があると思うのですが，とにかく，人を呼ぶために何をするのかというところに集中して考えていった方がいいのではないかといった時に，ご当地アイドルなども１つの手法としてあるでしょうし，クラフト市，バー・バル・バールも含めて，その総合力で，芸術館を否定するのではなく，芸術館の周辺にそういったコンテンツを集積して，それをどういう形で設計していくかはこれからだと思うのですが，十分に可能性があるのではないかと思っています。

○市長　ありがとうございます。

時間もあと５分ないし10分以内に終わりにしなければならないのですが，____さん，どうでしょう。

○____さん　ホーリーホックを支援している立場から一言。

僕はなぜホーリーホックを支援しているかというと，まちづくりなのです。経済なのです。ベガルタ仙台のユアテックススタジアムは２万人ちょっと入るのかな。そこでＪ１に昇格すると１年間の経済効果は20億円以上なのです。やはりＪ１に昇格すれば経済効果はあると思いますし，スタジアム建設はすごくお金がかかってしまうと思いますが，将来的には，サッカー文化は，南米とかヨーロッパを見ると，例えば，ドイツの３部のチームが，名前も聞いたこともないようなまちが，自分たちのホームゲームがその日の夜開催されるとなると，商店街は誰もいなくなるのです。ほとんどみんなスタジアムに行って，スタジアムは満員で，あとは自分の家でテレビを観ているから，まちなかには人っ子一人いない。そこまでなるのには100年とかかかるでしょうが，ライフスタイルというか，このまちに住んでいて良かったという１つのポテンシャルにはなるのではないかと思っております。

○市長　どうですか。

____さん，どうぞ。

○____さん　文化というお話ですが，外から来た人間として，水戸に来た時に，水戸ってこういうまちだろうなと思い浮かべて来たのですけど，全然違ったのですよ。親父も私が水戸に住むということで観光に連れてきて，すごい期待して来たのです。何を期待して来たかというと，親父も私も水戸黄門のまちだと思って来たのです。ところが，皆さん，一生懸命，水戸黄門を否定しているのか何かよく分からないですけど，捨てようとしているの

か，そういう古くさいものはもういいよみたいな雰囲気がすごく伝わってくる。外から見れば，水戸は水戸黄門のまちですよ。違うのですかね。１つ，感想で。

○市長　生粋の茨城県人はどうですか。私もそうですけど。梅とか水戸黄門は大切にしよう。あるいは，歴史とか自然景観は大切にしよう。ただ，若い人たちが思っているのは，それだけでは水戸は食べていけないというか，成り立っていけない。だから，ご当地アイドル等も含めて，バー・バル・バール等も含めて，いろいろな新しい文化が生まれてきて，若い人たちがそこで楽しんでいるということは大切かなと思っています。だから，柱一本大切にしながら，新しい芸術とかスポーツとか，皆さんのイベントとか，そういったものが生まれてきて，ただ，それがつぎはぎみたいな形ではなくて，それが水戸らしさとして１つ集結できればいいかなと。大切なものはもちろん守りつつ，新しいものをどんどん入れていかなければならない。先ほど，____さんが，非常に排他的だというところで，私も180年前に富山から来たと今だに言われるのです。そういうところがありまして，守りつつも新しいものは必要なのかなと思うのですが，皆さん，いかがでしょうか。

____さん，どうぞ。

○____さん　先ほど五節句の話があったので，私も節句屋ですから，日本人の民度は世界の発展途上国レベルからいうと神様レベルらしいです。例えば，日本だったら，何か物を置いて席を離れてもあまりなくなることはないと思うのですが，海外だと絶対なくなるじゃないですか。震災の時も，無法地帯になりそうな環境でも並んだとか，ああいうのは日本人がそもそも常識として持っているものです。

民度が高いのはなぜかというと，これは昔から節句文化があったからと言われているのです。それはどういうことかというと，みんなに愛されて，家族愛を感じる文化があったから，そういう中で育つとそういう心が育つ。そういう日本の精神性というか，守ってきたものは，これからなくならせてはいけないし，急激になくなるものでもないとは思うのですが，そういった価値をもっともっと周りが評価しなければいけないのではないかと思うのです。我々のすばらしい精神性は日本文化から育まれてきたものなので，水戸は歴史のまちですし，そういったものを守っていく最先端の立場にいるのではないかと思います。

____さんの水戸黄門というのは，何もなければ，一点突破で水戸黄門ばかり言っているまちになったかもしれないのですが，下手に恵まれていたものですから，その他に行ってしまったと思うのですが，もともとあって，武器にできるものをもう一回再評価とか認識し直して，ちょっと有名なのではなく，一点突破で，飛び抜けたものがあった方が他のものもうまくいくような気がするのです。水戸黄門のまちの水戸がこういうことをやっているみたいな，本当に飛び抜けているものが育てられないまちなのかなと思っているのです。

人がそこに憧れて住むかどうかというのは，住みやすさもそうですが，住環境というか，人の風土だと思いますので，日本人の美しい部分が育ちやすいまちであるべきではないかと思うのです。何となく漠然としていますが，先ほど申し上げた話とつながることなので，お話しさせてもらいました。

○市長　ありがとうございました。

大体時間になってしまったのですが，最後に，１人だけ，言っておきたいことがありましたら。

では，____さん。

○____さん　水戸生まれ水戸育ちなので分からない部分もあるのですが，今，外から来た人の意見が出ましたので，素直に聞くとすれば，水戸黄門に会いたくて来るのだなということを素直に受け止めますと，来た人をがっくりさせないことも大事だなと。

その他にもいろいろなことがあるのですが，観光などを考えた場合であれば，水戸黄門ミュージアムとかを見たいのかなと。ストレートに素直に考えると，弘道館の近くに動線としてそういうものがあったほうがいいのかなと感じました。それはいかがでしょうか。

○市長　ありがとうございました。

このまま求めると意見も尽きなくなってしまうと思いますので，一旦，事務局に返したいと思います。

○事務局　それでは，総評に入る前に，５分程度，休憩の時間を取らせていただきたいと思います。

再開は，３時 45 分でお願いしたいと思います。

○市長　最終的に皆さんの御意見をまとめてパワーポイントで確認させていただきたいと思います。

〔休　　憩〕

【６　総　　評】

○事務局　それでは，ワークショップを再開させていただきます。

これまで頂きました御意見等を整理いたしまして，今，表示させていただきました。

それでは，高橋市長により，総評をお願いいたします。

○市長　今日は，それぞれの立場で，お忙しい中，ありがとうございました。

皆様方に，それぞれの特徴的な活動をいただいている中で得た経験や知識をぶつけていただいて，本当にありがとうございました。

水戸市の物足りないところ，あるいは，水戸市がポテンシャルで持っているもの，あるいは，良いところ，悪いところ，そして，新しい発想，様々な御意見を頂きました。

これらの御意見につきましては，今日はここにざっくりと書かせていただきましたが，全て網羅させていただいて，よく精査させていただきながら，今後の施策に反映させていきたいと思っております。

私たち行政だけでは持ち得ない価値観とか感性を皆様から聞かせていただくことができましたし，良いことばかりではなく，私たちがマイナス的なことを分かって，それをどういうふうに改善・解決をしていくかということが次へつながっていくと思っておりますの

で，皆様方に，水戸市の物足りない部分とか悪い部分を御指摘いただいたということだけでも，私たちの次なるステップへの糧になるのかなと思っております。

１つ１つ述べさせていただくと時間がないので，私も皆さんの御意見を全てメモに書かせていただきましたので，自分なりにまとめさせていただきながら，これから定住化，あるいは交流人口を増やしていく，あるいは産業を創生していく，働く場所をつくっていく，そのことによってまちが元気に，持続可能なものとして皆さんの生活の営みを支えられるようなまちをつくっていくことに，職員も後ろに来ていますから，恐らく良い刺激になったと思いますので，職員一丸となって努力していきたいと思っております。

せっかく皆さんにワークショップのメンバーになっていただきました。ワークショップという形式では最初で最後なのですが，今日，名刺交換していただいたと思いますので，平成 27 年の秋ぐらいに骨子をつくって，平成 27 年度中，来年の３月 31 日までに仕上げたいということで，まだ時間がありますので，お気づきの点とか，言い足りなかったこととか，あるいは，もっとこうすべきだという新しい発想がありました時には，皆さんに企画書でまとめていただいて，政策審議室にぜひお寄せいただければと思っています。後でまとめる都合がありますので，紙屋さんがいて申し訳ないのですが，紙で頂くと，またそれを全部移し替えなければならないものですから，データベース，あるいはメール等で送っていただければ有り難いと思っておりますので，ぜひこれを御縁に，皆様方に行政に深く関わっていただいて，水戸ならではの総合戦略をつくり上げていきたいと考えておりますので，長くお付き合いをいただきますように，よろしくお願い申し上げて，総評というか，お礼の御挨拶に代えさせていただきたいと思います。

本当にありがとうございました。

【７　閉　　会】

○事務局　本日頂きました御意見等につきましては，今後，総合戦略に反映させるべく検討を進めてまいりたいと考えております。

本日は，長時間にわたりまして，また，お忙しい中，大変ありがとうございました。

お疲れ様でございました。